

小児慢性疾患の疫学的研究

分担研究者	慶応大学小児科	加藤	精彦
研究協力者	日本大学小児科	大國	真彦
	日本大学小児科	北川	照男
	東京医科歯科大学小児科	矢田	純一
	国立小児病院	飯倉	洋治
	県立神奈川こども医療センター	長尾	大

〔研究課題〕

小児慢性特定疾患の疫学的研究——昭和53年度全国医療給付に関する実態調査——

〔研究目的〕

数年前全国調査における小児慢性疾患数は約7万例とされているが、最近の実態は不明であり、小児慢性特定疾患の全国的分布、頻度及びその診断治療の実態を明かにすることは、これら疾患の今後の動向を推知し、重点的、効率的な治療を達成するためにも是非必要であり、そのため基礎資料の集計と分析を行ない、疫学的、全国的な視野からの研究を遂行することを目的とした。

〔研究計画〕

昭和54年度に於ては、小児慢性特定疾患々者の全国的集計調査ならびにその解析を行なうこととし、昭和53年度分の小児特定疾患医療支給者台帳の写しを全国都道府県衛生部に依頼し、これを基礎資料として、このカード化とコンピューターによる集計分析を計画した。台帳の記載項目は各都道府県や政令都市により多少異なり、一律にいかない面もあるが、出来るだけ共通の項目をピックアップして、インプットの項目を以下の如く設立した。即ち、負担者番号、受給者番号、男女別、生年月日、年齢、保護者住所、指定医療機関名、治療認定期間、保険種別、入院院別、転帰、診療日数および各症例の特定疾患群別と診断名をカード化することとした。猶小児慢性疾患群には、悪性新生物、慢性腎疾患、喘息、慢性心疾患、内分泌疾患、膠原病、糖尿病、先天性代謝異常（先天性免疫不全を含む）および白血病など血液疾患が含まれ、更にこれら疾患群のなかで診断名が記載されることになるが、幾つかの都道府県に於ては、台帳に診断

名の記入項目のないものがあつた。台帳に記載のないものは不明として扱った。

これに基づいて、次にアウトプットの項目に就て、小児慢性特定疾患の各疾患群別の専門医である各研究協力者と協議し、以下の如くアウトプットの項目をピックアップして、集計調査し、分析を行うこととした。

即ち、

1. 総症例数および各疾患群別症例数。
2. 上記症例の各都道府県別および市町村別の症例数、性別、受診時年齢（年齢別性別分布）
3. 各疾患群別の保険種別診療目的、指定医療機関別、医療給付種別などの比率。
4. これら疾患の転帰その他。
5. 続いて各疾患群内診断名別の症例数をはじめ、上記1—4の項目に就いて同じく各診断名別の集計を行なうこととした。

猶時間的余裕があれば、記載されている診断名の整理統合を別に行ない、対比して正確な疾患頻度とその分布に就いても検討を行なう予定とした。そのため各研究協力者の夫々の専門疾患群内の診断名について、最終病名の整理決定を依頼した。

〔研究結果並びに考按〕

今回集計を行った昭和53年度小児慢性特定疾患医療支給者台帳は、全国都道府県並びに9政令指定都市を含んだ合計56の衛生部から送附されたもので、台帳の記載項目は各々多少異なっている処から、必ずしも一樣に集計出来ない面もあるが、集計項目の記載のないものは無回答とした。本年度は、まず9つの各疾患群別の集計結果を中心にして、その概要の成績を得たので、以下に

表 1 疾患群別都道府県，指定都市別分布

	1 悪性新 生物	2 慢性腎 疾患	3 喘 息	4 慢性心 疾患	5 内分泌 疾患	6 膠原病	7 糖尿病	8 先 天 性 代謝異常	9 血 疾 液 患	計
1 北海道	809	423	106	88	106	40	112	100	87	1,871
札幌市	215	181	57	51	43	16	37	24	31	655
青森県	81	150	74	91	24	21	20	14	33	508
岩手県	92	198	116	9	35	17	36	19	28	550
宮城県	86	268	134	16	32	23	22	18	54	653
秋田県	70	65	99	12	15	10	17	4	8	300
山形県	61	119	78	9	26	10	17	18	18	356
福島県	64	115	78	8	17	22	35	10	40	389
茨城県	159	312	376	187	60	25	31	36	41	1,227
栃木県	135	469	369	290	113	46	38	34	54	1,548
11 群馬県	138	203	62	46	41	26	32	25	51	624
埼玉県	491	472	440	515	156	81	99	103	112	2,469
千葉県	270	385	127	98	64	43	81	50	84	1,202
東京都	978	2,512	6	3,039	565	1,429	235	348	858	9,970
神奈川県	241	372	216	168	85	30	63	47	94	1,316
横浜市	163	142	144	47	49	46	68	69	102	830
川崎市	120	100	27	44	60	25	21	18	37	452
新潟県	158	227	105	17	21	8	35	30	63	664
富山県	91	82	38	19	18	8	26	16	28	326
石川県	62	109	28	38	23	14	22	13	19	328
21 福井県	54	102	25	39	17	14	6	18	14	289
山梨県	51	75	11	7	18	15	9	3	11	200
長野県	179	241	29	29	51	46	46	45	70	736
岐阜県	101	271	282	185	80	31	35	69	53	1,107
静岡県	305	384	334	383	112	91	44	128	92	1,873
愛知県	237	472	262	41	163	29	80	72	131	1,487
名古屋	99	212	103	19	82	15	44	37	57	668
三重県	92	187	42	15	18	9	39	17	38	457
滋賀県	86	268	57	141	19	16	22	16	31	656
京都府	83	116	28	32	29	9	14	8	26	345
31 京都市	108	157	99	142	43	18	29	20	28	644
大阪府	311	1,037	419	978	242	67	98	151	213	3,516
大阪市	90	305	81	232	111	37	47	56	78	1,037
兵庫県	190	417	268	298	100	38	74	59	78	1,522
神戸市	70	146	205	136	27	23	30	16	34	687
奈良県	63	112	40	16	20	6	23	22	27	329
和歌山県	89	86	19	6	23	3	19	13	19	277
鳥取県	47	137	1,195	4	19	0	11	9	15	1,437
島根県	64	154	71	14	17	19	23	23	32	417
岡山県	136	196	60	32	41	11	24	36	38	574
41 広島県	299	1,752	120	949	152	68	46	47	109	3,542
山口県	91	204	68	39	15	9	24	15	30	495
徳島県	48	92	17	12	24	6	26	7	24	256
香川県	88	124	28	22	21	4	17	15	12	331
愛媛県	76	129	36	19	30	12	22	14	22	360
高知県	44	82	36	2	14	4	21	5	11	219
福岡県	68	93	92	9	28	3	39	39	27	398
北九州市	59	87	36	16	18	6	40	13	20	295
福岡市	71	59	57	5	13	5	17	8	9	244
佐賀県	48	72	37	13	23	2	6	15	11	227
51 長崎県	86	180	155	41	42	19	24	39	43	629
熊本県	90	145	85	39	43	11	39	47	36	535
大分県	55	81	59	18	18	6	19	11	24	291
宮崎県	48	143	99	36	19	18	17	15	21	416
鹿児島県	63	108	33	14	26	14	38	21	11	328
沖縄県	88	97	38	75	34	62	48	15	27	484
計	8,261	15,427	7,306	8,850	3,305	2,686	2,219	2,128	3,364	53,546
合 計	53,546件									

報告する。

1. 各疾患群別の疾患総数に就て (表1)

総数では、慢性腎疾患が15,427件で第1位、2位は慢性心疾患8,850件、以下悪性新生物8,261件、喘息7,306件、血液疾患3,364件、内分泌疾患3,305件、膠原病は2,686件、糖尿病2,219件、そして先天性代謝異常2,128件で、総合計は53,546件であった。

因みに厚生省が昭和47年に行なった小児慢性疾患実態調査結果報告¹⁾によれば、総数40,160例で、慢性腎疾患12,994件、心疾患14,738、悪性新生物2,122、血液疾患2,466、内分泌疾患1,708、リウマチ熱4,137と膠原病675、糖尿病401、先天性代謝異常732件と先天性免疫不全187件が含まれる。更に慢性呼吸器疾患として40,308件が別に挙げられている。現在喘息は公害認定による申請が中心である処は、小児慢性特定での給付が少なくなるので、今回は喘息の実数に就ては、本表にては明かに出来ない。今回集計で喘息を除くと総数46,240件となり、喘息など慢性呼吸器疾患を除いた前回の総数40,160件と比数して約6,000件の増加であった。

2. 都道府県、指定都市別の疾患数 (表1, 2)

各疾患別にみた、各都道府県および政令指定都市別 (以下都府県別と略す) の疾患件数は表1の如くであり、9,970例の東京都を筆頭として、大阪 (大阪府と大阪市) 4,553、広島県3,542と続き、神奈川 (県と横浜、川崎両市を含む) 2,598、北海道 (道と札幌市) 2,526であった。1,000症例を超えたものは、表2の如くであるが、そのうち鳥取県は総数で第11位にあるが、喘息の症例が1,195件を占め、全国第1位であった。喘息症例に就ては上述の如く、地区によっては公害認定による給

表2 都道府県別疾患数別順位 (1000例以上)

	症例数(計)
1 東京都	9,970
2 大阪府 (含大阪市)	4,553
3 広島県	3,542
4 神奈川県 (含横浜市、川崎市)	2,598
5 北海道 (含札幌市)	2,526
6 埼玉県	2,469
7 兵庫県 (含神戸市)	2,209
8 愛知県 (含名古屋)	2,155
9 静岡県	1,873
10 栃木県	1,548
11 鳥取県	1,437
12 茨城県	1,227
13 千葉県	1,202
14 岐阜県	1,107

付が中心となっているので、全国分布ならびに総数の比較評価は出来ない。

3. 各疾患群別男女比に就いて (表3, 4)

次に各疾患群別男女比をみると、際だった男女差は血液疾患でみられ、これは血友病A・Bが多いために現われたと考えられた。(男75.6%, 女24.4%), 喘息も又男63.8%, 女36.2%で男性が多かった。表3の如くである。次に男女性別の疾患群別頻度をみると表4の如くで、男性では慢性腎疾患、悪性新生物、喘息、慢性心疾患の順で症例多く、慢性腎疾患が29.4%を占めていた。女性では同じく慢性腎疾患が28.0%を占めて最多数であったが、ついで慢性心疾患、悪性新生物、喘息の順番であり、総合計では、男児の罹患30,536名、女児22,475名であり、男児が全体の57.6%を占めていた。

4. 各疾患群の年齢分布とその男女別をみたものが表5である。上述の傾向の他は、特別の傾向は認め難かった

表3 疾患群別男女別分布-1

	男	女	計(%)	総数
悪性新生物	57.5	42.5	100	8,181
慢性腎疾患	58.8	41.2	100	15,280
喘息	63.8	36.2	100	7,286
慢性心疾患	51.6	48.4	100	8,737
内分泌疾患	49.3	50.7	100	3,246
膠原病	52.9	47.1	100	2,639
糖尿病	42.1	57.9	100	2,209
先天性代謝異常	59.6	40.4	100	2,204
血液疾患	75.6	24.4	100	3,329

表4 疾患群別男女別分布-2

	男(%)	女(%)
悪性新生物	15.4	15.5
慢性腎疾患	29.4	28.0
喘息	15.2	11.7
慢性心疾患	14.8	18.8
内分泌疾患	5.2	7.3
膠原病	4.6	5.5
糖尿病	3.0	5.7
先天性代謝異常	4.1	3.8
血液疾患	8.2	3.6
計(%)	100	100
総数	30,536	22,475

表 5 疾患群別年齢別男女別分布 (受診時)

	悪性新生物		慢性腎疾患		喘息		慢性心疾患		内分泌疾患		膠原病		糖尿病		先天性代謝異常		血液疾患										
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女									
0~1ヶ月	39	27	9	47	28	17	18	51	40	4	18	26	2	2	13	40	20	15									
1~2	3	2	1	3	2	1	0	25	14	0	1	0	0	0	8	1	1	0									
2~3	6	1	5	2	1	1	62	33	29	2	2	1	0	0	7	0	0	0									
3~4	4	0	3	2	1	1	67	44	21	8	2	0	1	0	5	4	4	0									
4~5	7	4	3	2	0	2	92	45	44	6	5	0	0	0	21	5	2	3									
5~6	17	7	10	4	3	1	99	63	35	10	4	0	2	2	26	14	6	1									
6~7	12	10	2	6	5	1	105	54	50	8	7	1	0	0	18	10	3	2									
7~8	16	7	8	3	1	2	126	58	68	13	7	4	1	0	24	15	7	4									
8~9	16	8	7	11	5	6	119	51	66	14	9	0	2	1	19	8	5	1									
9~10	11	7	4	8	5	3	117	59	54	10	6	6	0	0	19	12	6	2									
10~11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0									
1才	399	236	160	153	99	53	89	60	28	1,435	762	661	129	62	64	122	78	44									
2	538	310	223	207	136	71	228	146	82	982	485	491	143	63	79	202	139	62									
3	661	376	281	443	313	129	434	256	178	745	378	353	115	54	58	185	97	86									
4	670	389	276	720	437	272	426	286	140	735	351	374	182	89	90	186	110	75									
5	685	401	278	1,003	638	358	488	305	183	758	374	367	182	96	84	193	117	73									
6	616	328	282	1,257	733	514	522	335	183	698	349	342	193	107	82	184	101	83									
7	604	349	250	1,310	738	556	526	323	201	545	253	282	195	104	87	181	104	77									
8	522	298	214	1,322	747	563	608	364	240	355	179	175	176	92	82	168	90	76									
9	465	277	183	1,252	714	520	668	414	252	278	125	149	215	103	109	141	78	62									
10	421	229	187	1,115	684	482	722	451	268	254	152	99	188	91	90	161	80	79									
11	391	220	166	1,120	633	476	708	475	231	203	111	91	231	114	113	169	71	97									
12	349	195	153	972	519	439	561	376	184	182	93	87	232	105	123	131	51	76									
13	352	190	158	881	490	383	454	313	141	162	88	72	234	118	111	162	81	77									
14	349	200	147	999	556	436	364	254	110	165	88	74	251	118	130	124	61	61									
15	359	190	146	841	484	348	228	138	90	151	80	71	212	94	115	116	37	76									
16	294	180	113	631	388	239	131	69	62	123	70	49	149	66	82	95	36	53									
17	252	140	107	483	270	212	80	47	33	98	52	45	107	46	58	58	21	35									
18	179	110	67	337	205	127	36	15	21	45	28	15	60	25	34	37	12	25									
19	24	15	9	167	101	66	0	0	0	24	11	11	7	1	6	24	7	16									
20	0	0	0	66	41	24	0	0	0	7	4	3	1	0	1	5	2	3									
計	8,261	4,706	3,475	15,427	8,977	6,303	7,306	4,650	2,636	8,850	4,505	4,232	3,305	1,601	1,645	2,688	1,398	1,243	2,219	930	1,279	2,128	1,253	851	3,364	2,518	811

[注] 合計数は無解答も含まれるので必ずしも男女数合計と一致しない。

が、新生児期に喘息が18例ありまた膠原病や慢性腎疾患が比較的多数で、また糖尿病なども認められていることから、その病態の分析が大切と考えられ、興味のある処であった。慢性心疾患を除いて他の何れの疾患群に於

ても、生後1ヶ月迄の症例数が、その後の12ヶ月迄の毎月の症例数よりも大であることが注目された。これら症例の追跡調査は今後の課題の一つであろう。

5. 疾患群治療の保険種別分布について。

表 6 疾患群別保険種別分布

	悪性 新生物	慢性 腎疾患	喘息	慢性 心疾患	内分泌 疾患	膠原病	糖尿病	先天性 代謝異常	血液疾患	計
社 保	1,428	2,781	1,374	1,814	640	526	412	458	675	10,108
政府管掌健保	1,153	2,171	1,257	1,035	443	175	309	262	415	7,220
組管管掌健保	1,455	2,670	867	2,006	591	696	285	368	615	9,553
日雇労働者健保	19	11	3	3	2	1	0	1	1	41
船員保険	41	65	34	13	5	8	8	7	5	186
共済組合	676	1,078	660	631	250	207	169	128	223	4,022
自衛官等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
国民保険	2,640	5,233	2,335	2,770	1,090	913	720	679	1,136	17,516
その 他	89	136	57	38	16	18	19	16	18	407
計	8,261	15,427	7,306	8,850	3,305	2,686	2,219	2,128	3,364	53,546
無答	760	1,281	719	540	268	142	297	209	276	4,492

表 7 疾患群別入退院別分布

	悪性 新生物	慢性 腎疾患	喘息	慢性 心疾患	内分泌 疾患	膠原病	糖尿病	先天性 代謝異常	血液疾患	計
入院のみ	4,026	8,037	4,332	3,910	1,020	889	298	337	308	23,157
通院のみ	625	604	1,508	211	1,033	42	870	953	1,679	7,527
入院+通院	1,325	1,674	695	1,312	375	515	637	517	892	7,942
計	5,976	10,317	6,535	5,433	2,428	1,446	1,805	1,807	2,879	38,628
無答	2,285	5,110	771	3,417	877	1,240	414	321	485	14,920

表 8 疾患群別診察日数別分布

日数階層	悪性 新生物	慢性 腎疾患	喘息	慢性 心疾患	内分泌 疾患	膠原病	糖尿病	先天性 代謝異常	血液疾患	計
1～10日	526	544	927	1,526	573	31	238	348	555	5,268
11～20	422	701	623	780	452	87	225	304	394	3,988
21～30	439	759	514	528	377	93	193	253	333	3,489
31～60	1,077	1,890	793	1,046	428	417	386	286	513	6,836
61～80	829	1,301	312	309	163	195	221	108	208	3,646
91～180	1,434	2,053	590	240	154	183	184	114	184	5,136
181～330	468	1,205	680	93	41	76	78	48	45	2,734
331～365	47	834	706	48	14	43	51	26	56	1,825
計	5,242	9,287	5,145	4,570	2,202	1,125	1,576	1,487	2,288	32,922
無答	3,019	6,140	2,161	4,280	1,103	1,561	643	641	1,076	20,624

表6は、各疾患群別の保険種別の分布状態を示しているが、夫々の疾患群による特殊性は認められず、保険種別の分布は、総合計で、国民健保が最多数で、社会保険、組合管掌保険が、これにつき、政府管掌が第4位であった。疾患群内の使用保険の分布も概ねこの順位にあった。

6. 疾患群別、入退院別分布に就て

疾患群別で、何れも「入院のみ」の症例が多いのは、給付対象が入院のみに限られている都府県があることからくる結果で、「入院のみ」の大部分はこれであろうと考えられる。「通院のみ」は、入院精査のない症例であり、入院+通院は、両者が給付対象となる地区での症例数と思われる。無回答は、台帳カードに入通院別の項目のない症例である。

7. 診療日数について(表8)

喘息では診療日数は広く分布して平均化しているのに対して、悪性断生物では330日以降急激に減少している

こと、また血液疾患も1月以降の階層が減少していることが注目された。前者は生命予後との関係であるが、後者はそれと同時に、急性一過性の疾患が含まれているためではないかと思つた。従つて疾患群内での診断名の種類と頻度の分析が必要と判断された。一方内分泌疾患や先天性代謝異常でも、その傾向が著明だが、これは診断がなされた後通院加療が具体的に持続的でなく、時々経過観察したということ、このようになったのかも知れない。

8. 疾患群別の医療機関別分布(表9)

医療機関別では、大学小児病院は勿論多数であるが、絶対数では市中の中小病院での受診が多く、かかる病院の果たす役割は大であると考えられた。大学病院と小児病院が、総医療機関に占める比率は、慢性心疾患、内分泌疾患、先天性代謝異常疾患群に於いて、共に34%と高く、専門的診断と治療が必要であることを示しており、一

表9 疾患群別指定医療機関別分布

	悪性 新生物	慢性 腎疾患	喘息	慢性 心疾患	内分泌 疾患	膠原病	糖尿病	先天性 代謝異常	血液疾患	計
大学病院	2,065	1,770	89	2,305	846	594	352	543	741	9,305
小児病院	227	416	141	658	237	90	58	166	125	2,118
その他の病院	2,553	7,227	2,542	2,631	663	1,345	744	490	1,121	19,316
診療所	8	122	384	37	30	26	55	11	57	730
その他	14	20	88	23	0	12	17	7	18	199
病院(単に病院)	3,327	5,809	4,032	3,174	1,478	605	969	890	1,270	21,554
計	8,194	15,364	7,276	8,828	3,254	2,672	2,195	2,107	3,332	53,222
無回答	67	63	30	22	51	14	24	21	32	324
大学+小児病院/ 総医療機関	0.28	0.14	0.03	0.34	0.34	0.26	0.19	0.34	0.26	

表10 疾患群別転帰別頻度

	悪性 新生物	慢性 腎疾患	喘息	慢性 心疾患	内分泌 疾患	膠原病	糖尿病	先天性 代謝異常	血液疾患	計
治癒	32	200	233	30	24	35	12	12	6	584
継続	1,754	3,008	1,776	937	843	258	679	603	820	10,678
死亡	513	24	6	166	6	4	6	24	19	768
中止又は中断	718	1,384	704	464	226	178	99	85	114	3,972
その他	122	261	224	137	31	16	20	8	25	844
計	3,139	4,877	2,943	1,734	1,130	491	816	732	984	16,846
無答	5,122	10,550	4,363	7,116	2,175	2,195	1,403	1,396	2,380	36,700
継続の占める%	55.9	61.7	60.3	54.0	74.6	52.5	83.2	82.4	83.3	63.4
治癒の占める%	1.0	4.1	7.9	1.7	2.1	7.1	1.5	1.6	0.6	3.5

表 11 疾患群別診断名別男女別症例数

1) 悪性新生物			
	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 脳腫瘍	1,214 (14.8)	673 (14.3)	541 (15.6)
2 急性リンパ性白血病	856 (10.5)	477 (10.1)	379 (10.9)
3 白血病	789 (9.6)	468 (9.9)	321 (9.2)
4 急性白血病	588 (7.2)	358 (7.6)	230 (6.6)
5 神経芽腫	542 (6.6)	308 (6.5)	234 (6.7)
その他	4,192 (51.2)	3,095 (65.8)	1,770 (50.9)
計	8,181	4,706	3,475
2) 慢性腎疾患			
	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 ネフローゼ症候群	4,993 (32.7)	3,560 (39.7)	1,433 (22.7)
2 慢性腎炎	4,473 (29.3)	2,203 (24.5)	2,270 (36.0)
3 紫斑病性腎炎	1,046 (6.8)	536 (6.0)	510 (8.1)
4 慢性腎盂腎炎	595 (3.9)	233 (2.6)	362 (5.7)
5 水腎症	217 (1.4)	149 (1.7)	70 (1.1)
その他	3,956 (25.9)	2,296 (25.6)	1,658 (26.3)
計	15,280	8,977	6,303
3) 喘息			
	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 気管支喘息	6,433 (88.3)	4,104 (88.3)	2,329 (88.4)
2 小児喘息	23 (0.3)	17 (0.4)	6 (0.2)
3 気管支拡張症	22 (0.3)	7 (0.2)	15 (0.6)
その他	7 (0.1)	5 (0.1)	2 (0.1)
不明	801 (11.0)	517 (11.1)	284 (10.8)
計	7,286	4,650	2,636
4) 慢性心疾患			
	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 心室中隔欠損症	2,020 (23.1)	1,039 (23.1)	981 (23.2)
2 心房中隔欠損症	527 (6.0)	272 (6.0)	255 (6.0)
3 先天性心疾患	519 (5.9)	288 (6.4)	231 (5.5)
4 ファロー四徴症	455 (5.2)	261 (5.8)	194 (4.6)
5 動脈管開存在	239 (2.7)	97 (2.2)	142 (3.4)
その他	4,978 (57.0)	2,548 (56.6)	2,401 (57.1)
計	8,738	4,505	4,204
5) 内分泌疾患			
	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 下垂体性侏儒 (小人) 症	1,021 (31.5)	708 (44.2)	313 (19.0)
2 クレチン症	467 (14.4)	183 (11.4)	284 (17.3)
3 グレーブス (バセドウ) 病	135 (4.2)	22 (1.4)	113 (6.9)
4 副腎性器症候群	131 (4.0)	55 (3.4)	76 (4.6)
5 甲状腺機能亢進症	131 (4.0)	16 (1.0)	115 (7.0)
その他	1,361 (41.9)	617 (38.5)	744 (45.2)
計	3,246	1,601	1,645

6) 膠原病

	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 若年性慢性多発性関節炎	571 (21.6)	259 (18.6)	312 (25.1)
2 リウマチ熱	439 (16.6)	239 (17.1)	200 (16.1)
3 慢性リウマチ性心疾患	49 (1.9)	24 (1.7)	25 (2.0)
4 紫斑病	38 (1.4)	19 (1.4)	19 (1.5)
5 多発性動脈炎	13 (0.5)	9 (0.6)	4 (0.3)
その他	1,529 (57.9)	846 (60.6)	683 (54.9)
計	2,639	1,396	1,243

7) 糖尿病

	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 若年性糖尿病	1,804 (81.7)	767 (82.5)	1,037 (81.1)
2 ケトアシドーシスを伴う糖尿病	2 (0.1)	0 (0)	2 (0.2)
3 その他	403 (18.2)	163 (17.5)	240 (18.8)
計	2,209	930	1,279

8) 先天性代謝異常

	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 体液性免疫不全症	165 (7.8)	136 (10.9)	29 (3.4)
2 フェニルケトン尿症	141 (6.7)	75 (6.0)	66 (7.8)
3 銅代謝障害	134 (6.4)	71 (5.7)	63 (7.4)
4 糖原病	131 (6.2)	90 (7.2)	41 (4.8)
5 ヒスチジン血症	120 (5.7)	53 (4.2)	67 (7.9)
その他	1,413 (67.2)	828 (66.1)	585 (68.7)
計	2,104	1,253	851

9) 血液疾患

	計 (%)	男 (%)	女 (%)
1 血友病A	1,285 (38.6)	1,259 (50.0)	26 (3.2)
2 グランツマン血小板無力症	114 (3.4)	101 (4.0)	5 (0.6)
3 血友病B	106 (3.2)	69 (2.7)	45 (5.5)
4 先天性好中球(顆粒球)減少症	99 (3.0)	59 (2.3)	40 (4.9)
5 仮性血友病	81 (2.4)	49 (1.9)	32 (3.9)
その他	1,644 (49.4)	981 (39.0)	665 (81.8)
計	3,329	2,518	813

方悪性新生物、膠原病、血液疾患は、その他の病院(総合病院や小病院など)にも広く分布しているのが特徴であった。喘息はその他の病院や小病院に多く、又糖尿病も毎日のインスリン注射の上からも、広く市内の病院、診療所に迄広くその役割が感ぜられた。

9. 転帰との関係

転帰は各診断名別に分析すべきであるが、先づ第一段階として、各疾患群別の転帰を集計してみた処、表10の如くであった。悪性新生物、慢性心疾患に死亡が多くみられたが、一方血液疾患では白血病などを抱えているにも拘らず継続の比率が高く、最近の治療法の進歩に負うところも大であると思われた。無回答を除く総数中に占

める継続の比率(%)は、血液疾患の他糖尿病、先天性代謝異常、内分泌疾患が大であり、元来何れの疾患群も慢性疾患である故え、治癒と判定される疾患は少なく当然であるが、血液疾患や悪性新生物のこの期間中の治癒率は、夫々0.6、1.0%であって最も低値であった。低い治癒率の中で、喘息7.9%、膠原病7.1%が最も高値を示していた。総合計に占める治癒症例と判断されたものは、3.5%であり、継続の占める%は、63.4であった。

10. 各疾患群内の診断名上位5位について。

各疾患群内病名の頻度の高いもの5つを挙げた。表11の如くである。同一カテゴリーに入る病名も、本表では

整理統合を行わず、台帳記載の通りを原則として示した。今後これらの細部に亘る検討が一つの課題ではあるが実態把握という面では、もう一つの真実を示していると思われる。本台帳では都府県のうち、病名の記載欄のないものがあり、詳細な診断名の実数は必ずしも正確でないと考えられる。表中の喘息の疾患群の中では病名は3つしか挙がって来ないので、3位迄の記載である。その他は、その群中のその他の病名の総和症例数であり、不明は記載のないものである。

今後各疾患群内最終診断名についての分析を行ない、同一疾患の正確な総数を集計し、以上の各項目について分析した成績を検討する必要があるだろう。

〔結語〕

昭和53年度の全国都道府県および政令指定都市の小児慢性特定疾患の治療給付台帳の各項目から、コンピューターによる集計を行ない、小児慢性疾患の疫学的研究を行ない、今回は各疾患群別の相互関係や特徴に就て検討した成績を報告した。今後疾患群内の診断名別によるアウトプット項目の集計分析により、より詳細な疫学的研究を行なう予定である。

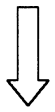
文 献

- 1) 厚生省児童家庭局：小児慢性疾患実態調査結果報告（昭和47年）、日本児童福祉協会刊、昭和49年



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔研究目的〕

数年前全国調査における小児慢性疾患数は約 7 万例とされているが、最近の実態は不明であり、小児慢性特定疾患の全国的分布、頻度及びその診断治療の実態を明かにすることは、これら疾患の今後の動向を推知し、重点的、効率的な治療を達成するためにも是非必要であり、そのため基礎資料の集計と分析を行ない、疫学的、全国的な視野からの研究を遂行することを目的とした。